

女性の年金 低すぎる

幸への高齢女性は、月10万円以下という低年金で暮らして、食料品や電気代の高騰に苦しんでいます。2013〜15年の国の年金減額決定は憲法違反だと、年金受給者が減額決定取り消しなどを求めて全国で年金裁判をたたかっています。裁判闘争の中で浮き彫りになった女性の低年金問題の実態と背景、打開の課題を見てみます。

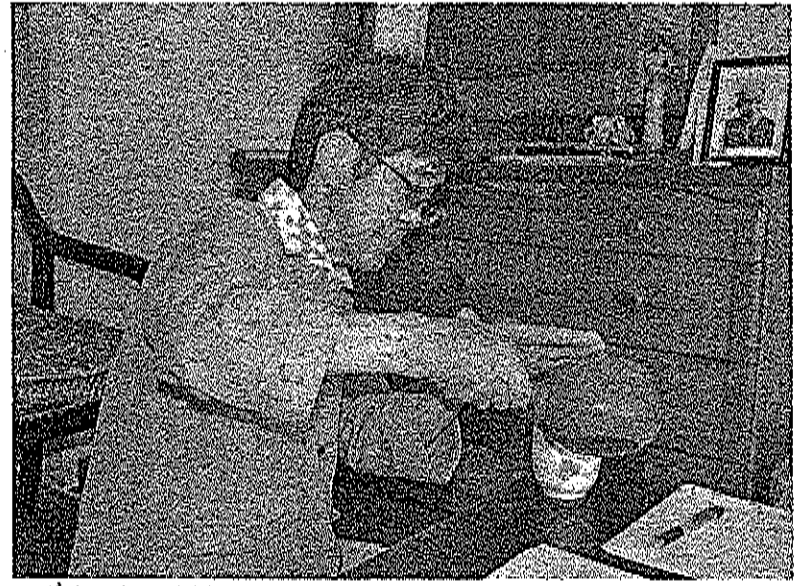
「私は35年間、厚生年金に加入しました。それでも年金受給額は、介護保険料、後期高齢者医療保険料が引かれて10万円。ずっと働いてきたのに初任給から男性と格差があるために年金が少ない」

母親の言葉が

年金裁判原告の一人で、千葉県八千代市に一人暮らしの高橋美穂子(かたしほ)さん(80)はこう語りま

3歳の時に父を事故で亡くし、母は女手一つで子どもを育てながら働きました。結婚した姉に「孫の面倒を見てほしい」と言われて仕事を辞めた母は「あの時

受給額10万円 生活ギリギリ



お茶をいれる高橋さん＝千葉県八千代市

働いていれば年金をもっともらえたのに」と後悔を口にしていました。29歳で見合い結婚をした夫との関係悪化も厚生年金にこだわってきた理由です。

「子育ても家事も全部自分がするもんだという夫で、20歳で見合い結婚をした夫との関係悪化も厚生年金にこだわってきた理由です。」

働いてしんどいのはそれほど苦ではなかったけど、言葉の暴力はしんどかった」と振り返ります。退職を機に60歳で離婚。慰謝料ももらわず家を出て、年金だけの再出発でした。4人の孫がいる茨城県に行くにも預金を取り崩さなければなりません。

原告に名乗り

高橋さんは7年前、年金裁判の原告に名乗りを上げました。

「私他に大変な方はいっぱいいらっしゃるけど、さげ出さないから大変さが伝わりません。原告になった時点で私が訴えると決めたんです。全国ネットのテレビで事態を訴えたこともありました。物価が上がって、週2回の買い物は3000円ですんだものが4000円以上もかかるように。洋服は他人

から譲り受けています。電気代の高騰でも夏場のエアコンは欠かせません。今は健康ですが、医療費も心配です。

「物価が上がっているんだから年金も引き上げるべきです。年金削減なんてあまりにもひどいとみんなが訴えなければいけません」

岸田政権がトマホークを闊つてお金を使って、福祉を削ろうとしていると批判。「大軍拡・大増税」「匿名」を常に携え、人が集まることを呼びかけています。

高橋さんは強調します。「いま非正規で働いている人が多く、少子化で若い人たちがもっと大変になるだろうと思います。男女の賃金格差をなくし、正規で働けるように変えていかないとダメです。最低保障年金で安心して生活できる年金制度にしてほしい」(cnn)